

藝 GEI RIN 林

第六十一卷 第二号

平成二十四年十月

大正天皇の即位大礼勅語

朕、祖宗の遺烈を承け、惟神の寶祚を踐み、爰に即位の禮を行ひ、普く爾臣民に誥ぐ。

朕惟ふに、皇祖祖宗、國を肇め基を建て、列聖、統を紹き裕を垂れ、天壤無窮の神勅に依りて、萬世一系の帝位を傳へ、神器を奉じて八洲に臨み、皇化を宣べて蒼生を撫す。

爾臣民、世世相繼ぎ、忠實公に奉ず。／義は則ち君臣にして、情は猶ほ父子のごとく、以て萬邦無比の國體を成せり。

皇考、維新の盛運を啓き、開國の宏謨を定め、祖訓を紹述して不磨の大典を布き、皇圖を恢弘して曠古の偉業を樹つ。／聖徳、四表に光被し、仁擇、僻陋に霑洽す。

朕、今不績を續ぎ遺範に遵ひ、内は邦基を固くして永く磐石の安きを圖り、外は國交を敦くして共に和平の慶に頼らむとす。

朕が祖宗に負ふ所、極めて重し。／祖宗の神靈、照鑑上に在り。／朕、夙夜競業天職を全くせむことを期す。

朕は爾臣民の忠誠其の分を守り、勵精其の業に従ひ、以て皇運を扶翼することを知る。

庶幾くは心を同しくし、力を戮せ、倍々國光を顯揚せむことを。爾臣民、其れ克く朕が意を體せよ。 (宮内省編『大正天皇実録』)

百年前の大正元年(一九一二年)七月三十日に踐祚された大正天皇(満三十三歳一箇月前)は、明治天皇・昭憲皇太后の諒闇を経て、同四年十一月十日、京都御所の紫宸殿において新調の高御座に登壇し、みずから即位の勅語を朗々と宣読された(大嘗祭は同月十四日)。

※原文の片カナを平がなに改め、句点・読点・濁点を加え、行を詰めた。